



# 肝臓がんの手術後にアガリクス

肝臓がんの手術後にアガリクスは1つの選択肢。  
そんな予測のもと、科学的に評価しようとしたのが、佐々木総長。  
実際、どんな結果が得られたのでしょうか。佐々木先生にお聞きしました。

関西で腕の良い肝臓外科医と言えば、佐々木総長。そう言われるほど、佐々木総長の実績は豊富です。手術数はこれまで約2000例、総長になった今でも最前

線である手術室に立ち、患者の治療に力を尽くしています。

肝臓がんの治療法は進展を見せているものの、再発を起す可能性は低いとは

言えないのが現状です。「肝臓がんの9割が肝細胞がんと言われるのですが、他のがんと違い、もともとあったがんをきれいに取り去っても、また新たに発生するという特徴があります。ですから、定期的に経過を見る必要があります」と佐々木総長。長く付き合う必要があるがんだと言います。

## 佐々木洋 八尾市立病院 総長

大阪大学医学部卒。大阪府成人病センターの消化器外科部長を経て、2009年、八尾市立病院の病院長に就任。2015年、同病院総長に就任。大阪府病院協会副会長なども兼任する。肝臓がんの治療だけでなく、各種消化器がんの治療・研究においても国内トップクラス。2000年初頭、「肝細胞癌切除後再発予防のための術後アガリクス茸抽出液投与の有効性の検討」を学会発表。アガリクスの有効性を評価した。

三人に一人はがんで亡くなるというデータもあります。そんな中、佐々木総長は「がんでは死んでほしくない。がんとの共生ではなく、治すために最善を尽くして

います」と意欲的。肝臓は「沈黙の臓器」と言われるほど自覚症状が現れにくく、発見が遅れがちです。しかし一方で、肝臓の一部が傷ついても、残った部分が機能を維持しようとする力強さもあります。

佐々木総長は「私たちの役割は、残された肝機能を活かし、患者さんの生活の質を元の状態に戻すことです」と力を込めます。

ある一人の患者さんが、アガリクスを教えてください

そんな佐々木総長のもとに、ある日、一人の患者さんが訪れました。肝臓がんの手術をしたものの、その後再発。再手術が必要となったそうです。ところが、再手術のための検査を行った佐々木総長は、その後の経過をみて驚きました。「何か特別なことをしましたか?」そう聞くと、患者さんはこう答えました。「アガリクスを飲んでます」。

この一件をきっかけに、佐々木総長はアガリクスに注目。研究を開始したそうです。

研究では、肝臓がんの手術をした患者さん40人に、2年間、一日3回アガリクス

を飲んでもらい、検証。その結果、がんを攻撃し、体を守ろうとする免疫細胞「NK(ナチュラルキラー)細胞」にも注目できることがわかりました。

「医療にとって「副作用がない」ことは非常に重要

佐々木総長は、アガリクスが副作用を起さないことにも着目。2年間という長期の服用にもかかわらず、すべての患者さんが安全に服用できたことを高く評価しました。

佐々木総長は、副作用がないことの重要性について、次のように語ります。

「私たち医師は、がんを治すことを目標に日々治療をしています。やはり、医療だけではがんを完全に克服することはできない。そんなとき、アガリクスのようなサプリメントが患者さんを支える力になってくれれば、こんなにいいことはないと思えます」。

サプリメントに難色を示す医師も少なくない中、佐々木総長は「副作用がなく、患者が納得して飲むのなら、治療と平行してサプリメントを服用してもいい」と考えています。その点、アガリクスは原料が明確なものであれば、厚生労働省が研究助成金による研究班の「がんの補完代替医療ガイドブック」にも、ヒト臨床試験の結果が報告されており、信頼性が確

認されています。

信頼できるサプリメントであれば、飲んでも問題はない。それによって気持ち前向きになり、治療に希望の光を見いだせるなら、それに越したことはない。そんな思いを垣間見ました。

バランスのとれた生活こそがんを防ぐコツ

一日のうち、三分の一はひとりの医師として現場に立ち、三分の一は総長として管理職の業務をこなす、残りの三分の一は医師会などの公的活動に携わる佐々木総長。非常に多忙にもかかわらず、健康な体を維持しています。「これといって特別な健康法は行っていませんが、しいていえば、野菜中心の生活でしょうか。食事の六割くらいを野菜が占めていますよ」。

ただし、体に良いとされる野菜や運動であっても、偏るのはよくないとも。規則正しい生活と、バランスのとれた食事こそが、がんを遠ざける一番の特効薬だと言います。

食事が欧米化し、あふれるほど食べ物がある飽食の時代。そんな時代にありながら、バランスのとれた体を作るために、アガリクスなどのサプリメントを摂取する。それもまた、健康で元気な人生を送るために必要なことかもしれません。



八尾市立病院  
1946年、日本医療団八尾病院として開院。以後60年以上に渡り、大阪府八尾市民の健康を守り続ける。2009年には、5大がん(肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん)の診療体制を整えた「大阪府がん診療拠点病院」に指定。大阪東南部のがん医療の中核を担っている。病診連携にも熱心。